

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.52 Oct., 2008

## 目次

<b>企画案内</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>1</b>
シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」開催案内(10/31)・・・・・・・・	1
保健セミナー2008の開催案内(11/27-11/28)・・・・・・・・	2
<b>理事会報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>4</b>
平成20年度第1回理事会・・・・・・・・	4
<b>企画委員会報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>5</b>
平成20年度第2回企画委員会・・・・・・・・	5
シンポジウム「放射線リスクのよりよい理解のために」開催報告・・・・・・・・	6
<b>編集委員会報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>7</b>
平成20年度第1回編集委員会・・・・・・・・	7
<b>国際対応委員会</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>9</b>
平成20年度第1回国際対応委員会・・・・・・・・	9
<b>放射線防護標準化委員会</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>9</b>
第21回幹事会・・・・・・・・	9
第22回幹事会・・・・・・・・	10
第1回専門部会準備会・・・・・・・・	10
<b>法人制度検討WG</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>10</b>
第4回会合議事録・・・・・・・・	10
<b>若手研究会</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>11</b>
若手研究会活動報告・・・・・・・・	11
<b>学友会</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>12</b>
「学友会」活動報告・・・・・・・・	12
<b>専門研究会等の報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>12</b>
ICRP新消化管モデル専門研究会・・・・・・・・	12
放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会・・・・・・・・	12
大学等における放射線安全管理教育連絡会・・・・・・・・	14
医療放射線リスク専門研究会・・・・・・・・	14
<b>学会掲示板</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>14</b>
次期専門研究会の立ち上げについて・・・・・・・・	14
インターネットグループの活動・・・・・・・・	15
学会刊行物の案内・・・・・・・・	15

## 企画案内

### シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」開催案内

ICRP2007年勧告が出され、放射線の影響についても新たな知見が増えてきており、その中で組織加重係数の変更や、小さな被ばく量で構成される大きな集団を対象にしたガンの死亡数の予測評価が不適切であるなどが述べられています。LNTモデルが防護の目的として使われていると知りながら、一般にはそれがいつの間にか実際の影響として解釈され、その違いについてうまく説明できないでおられる学会員も多いことと思います。放射線の生物影響の知見は放射線の防護のあり方を左右する重要な根本的な課題であり、将来の規制の方向にも結びつくと考えられることから、ICRPで放射線影響を担当されている先生方や、放射線影響の最前線で研究をされている先生方をお招きして、放射線

による生物影響の最前線としてシンポジウムを企画しました。放射線防護、放射線管理の実務に携わる学会員にとっても放射線影響の何が分かって、何が分からないかを知る絶好の機会と考えますので、数多くの皆様の参加をお待ちしています。

1. 日 時：2008年10月31日（金）13：00～17：00
2. 場 所：東京大学工学部11号館講堂（本郷キャンパス）  
（地図参照：[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_04\\_12\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_12_j.html)）
3. プログラム
  - 13:00-13:05 開会挨拶  
座長：原子力機構原科研：斎藤公明
  - 13:05-13:35 放射線による生物影響の最前線とリスク評価体系  
放射線医学総合研究所：丹羽太貫
  - 13:35-14:05 放射線防護におけるリスク評価とその意味合い  
大分県立看護科学大：甲斐倫明
  - 14:05-14:35 放射線誘発バイスタンダー効果と細胞間情報伝達  
原子力機構高崎研：小林泰彦
  - 14:35-14:50 休憩  
座長：放射線医学総合研究所：酒井一夫
  - 14:50-15:20 クラスタDNA損傷・修復のモデル研究  
原子力機構原科研：斎藤公明
  - 15:20-15:50 低線量放射線影響に関する疫学研究  
放射線医学総合研究所：吉永信治
  - 15:50-16:20 化学物質のリスク評価の概要  
国立医薬品食品衛生研究所：広瀬明彦
  - 16:20-17:00 総合討論（講師全員）
4. 主 催：日本保健物理学会、共 催：日本放射線安全管理学会
5. 参加費：上記学会員2,000円、非学会員3,000円学生会員1,000円
6. 参加申込：準備の都合上、10月24日（金）までに下記の事務局までご連絡下さい。事前連絡をされない方も参加は可能。
7. 事務局：日本保健物理学会企画委員会、日本放射線安全管理学会企画委員会  
古田定昭（原子力機構）[furuta.sadaaki@jaea.go.jp](mailto:furuta.sadaaki@jaea.go.jp)、野村貴美（東大）[k-nomura@t-adm.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:k-nomura@t-adm.t.u-tokyo.ac.jp)  
（企画委員長：古田定昭（原子力機構））

### 保健セミナー2008の開催案内

「保物セミナー」は保健物理に関するホットな話題を取り上げ、10年以上に亘り毎年、関西において開催されています。本年は、現在関心が高まっている①放射線利用の最前線、②廃棄物処分の検討の現状、③新しい国際放射線防護基準への現場の対応に係る論点（本学会の企画セッション）、の3つの話題が取り上げられました。また、特別講演として岸田哲二氏による「柔軟な原子力防護体系の発展」と、文部科学省の中矢隆夫放射線規制室室長による「最近の放射線安全規制の動向について」が、また本学会理事会特別セッションとして、小田学会長による本学会の法人制度化に関する説明も企画されました。

今回も、沢山の方々にご参加いただき、活発なご討論をお願いします。

開催日：平成20年11月27日（木）～28日（金）

場 所：エルイン京都（EL IN KYOTO）（京都駅より徒歩3分）

主 催：保物セミナー実行委員会（日本保健物理学会を含む5団体で構成される）

後 援：文部科学省(予定)

参加費：

（1）参加費（要旨集代） 一人6,000円、ただし事前振込（11月5日当日有効）の場合は5,000円

（2）ボイソングセッション参加費 一人6,000円

申込方法：「保物セミナー2008 参加申込書」に必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。参加申込書は下記電子科学研究所のホームページにあります。<http://www.esi.or.jp/>

申込先 : 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町2丁目3番6号  
 (財)電子科学研究所内「保物セミナー2008」実行委員会宛  
 Tel.06-6262-2410 Fax.06-6262-6525 Eメール:tujimoto@l111.ne.jp

## プ ロ グ ラ ム

### 【1日目】平成20年11月27日(木) 13時00分～20時00分

- I. 開会の挨拶** (13時00分～13時10分) 保物セミナー2008 実行委員会委員長 辻本 忠
- II. 特別講演(1)** (13時10分～13時30分)  
 座長 (財)放射線影響協会常務理事 久芳 道義  
 「柔軟な原子力防護体系の発展」  
(株)日本ネットワークサポート社長 岸田 哲二
- III. 放射線利用の最前線** (13時30分～16時00分)  
 座長 日本アイソトープ協会甲賀研究所所長 栗原 紀夫
- (1) 放射線照射利用の現状について(50分) 大阪府立大学理学部准教授 古田 雅一
- (2) 放射線殺滅菌分野における最新のトピックス
1. 国内初の医薬品電子線滅菌の承認について(50分) 日本電子照射サービス(株) 取締役技術企画部長 山瀬 豊
2. 放射線照射された食品の検知法について(50分) 厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所 食品部室長 宮原 誠
- IV. 特別講演(2)** (16時00分～17時00分)  
 座長 大阪大学大学院教授 飯田 敏行  
 「最近の放射線安全規制の動向について」  
文部科学省原子力安全管理課 放射線規制室室長 中矢隆夫
- V. ボイリング・ディスカッション** (18時00分～20時00分)  
 テーマ「 (未定) 」  
総司会 放射線取扱主任者部会 豊田 亘博
- .....

### 【2日目】平成20年11月28日(金) 9時00分～17時00分

- VI. 廃棄物処分の検討の現状** (9時00分～12時00分)  
 座長 京都大学原子炉実験所准教授 藤川 陽子
- (1) 放射性廃棄物の安全基準の哲学(30分) (独)防災科学技術研究所 地震防災フロンティア研究センター センター長 東原 紘道
- (2) 高レベル放射性廃棄物の地層処分の現状(30分) 東京工業大学客員教授 北山 一美
- (3) 低レベル放射性廃棄物処分の安全規制に係る近年の検討経緯(20分) 京都大学原子炉実験所准教授 藤川 陽子
- (4) 低レベル放射性廃棄物の処分の現状(40分) 関西電力(株)原子力事業本部原子力環境整備 プロジェクトチームマネジャー 山田 基幸
- (5) ウラン廃棄物の問題点(30分) 藤田保健衛生大学客員教授 下 道国
- (6) R I ・医療放射性廃棄物の現状と将来 (30分) (社)日本アイソトープ協会部長 古川 修
- 休 憩 (12時00分～13時00分)
- VII. 保健物理学会理事会特別セッション(法人制度検討説明会)** (13時00分～13時30分)  
 (1) 法人制度の検討状況の説明 日本保健物理学会会長 小田啓二
- (2) 意見交換

**VIII. 新しい国際放射線防護基準への現場の対応に係る論点 保健物理学会企画セッション**

(13時30分～16時35分)

座長 京都医療科学大学教授 大野 和子  
企画委員長挨拶(5分)

保健物理学会企画委員長 古田 定昭

(1) 放射線審議会基本部会におけるICRP2007年勧告の法令取り入れに係る検討状況と論点(30分)

近畿大学原子力研究所准教授 杉浦 紳之

(2) 国際基本安全基準 (BSS) 改訂状況と論点(30分)

(独)放射線医学総合研究所グループリーダー 米原 英典

(3) 原子力発電所における対応(20分)

東北電力(株)火力原子力本部副長 伊藤 重

休 憩 (10分)

(4) RI 施設 (大学・研究機関) における対応 (20分)

名古屋大学アイソトープ総合センター教授 柴田 理尋

(5) 医療現場における対応 (20分)

近畿大学医学部教授 細野 眞

総合討論(50分)

座長 (独)放射線医学総合研究所グループリーダー 米原 英典

**IX. 閉会の挨拶 (16時35分～16時40分)**

大阪大学名誉教授 山本 幸佳  
(企画委員: 米原英典 (放医研))

**理事会報告**

**平成20年度 第1回理事会議事概要**

日 時: 平成20年5月9日(金) 13:30-17:30

場 所: 原子力機構 システム計算センター (上野) 7F 会議室

出席者:

理事: 小田(会長)、猪俣、斎藤、酒井、杉浦、谷口、服部、林、古田、村上

監事: 下、千葉 参与: 小池、荻野 委任出席: 太田、福士、山澤

議事概要:

- (1) 研究発表会沖縄大会での台風等に伴う航空便の欠航が生じた場合の対応について確認した。
- (2) 編集委員会活動報告として、投稿規則及び手引きの見直しの検討、投稿の勧誘の方策を検討している旨の報告があった。また、和文論文の英訳版の作成計画、論文の Web 上への掲載、原稿到着から学会誌掲載までの時間短縮について検討を進め目安時間を周知することなどの説明があった。
- (3) 企画委員会活動について報告があり、この中で、専門研究会の傍聴機会の拡大を図ることなどが確認された。また、学会ホームページの充実や、日本放射線安全管理学会との共催企画について検討することとなった。
- (4) 国際対応委員会報告として、IRPA 理事会におけるアジア幹理事の検討に係る状況説明、韓国及び中国との交流計画等について説明があった。また IRPA-12 における事務会合の予定についての情報、IRPA 所属学会へのアンケート等について紹介があり、各理事がアンケートの該当項目について記入内容を検討することとなった。また、韓国及び中国との相互交流に係る協議状況等の報告があった。
- (5) 放射線防護標準化委員会の状況報告があり、この中で「重要な概念」に係るパブリックコメントを募集中であること、HP 上の委員名簿の更新及び同日午前中に開催された幹事会についての報告があった。
- (6) 広報関係の状況説明があり、研究発表会沖縄大会をプレスに周知すること、HP の更新依頼を行うこと等の説明があり、了承された。
- (7) 監査報告、平成19年度決算案、貸借対照表、平成20年度予算案の説明があり、決算報告の一部表現を見直すこととなった。また今後、貸借対照表の貸方固定負債についての見直し、専門研究会の活動費の増額を検討すること等が確認された。
- (8) 日本放射線安全管理学会との対応 (企画行事の共催等に係る窓口の一本化、合同企画の検討、両学会会員の両行事参加資格の確認) 及び JARR との対応 (科研費に係る研究領域提案型研究の提案) についての説明があった。
- (9) 若手研究会の活動状況に係る報告及び4月22日に開催された同幹事会の報告があり、この中で出された放射線防護

標準化委員会への若手研粋設置の希望について同委員会で検討することとなった。また、若手研究会運営規則が承認され臨時委員会と同等の位置づけであることが確認された。

(10)4月30日に開催された法人化検討WG第1回会合の報告があり、今後のスケジュール案、総会での対応方針等について説明があり、了解された。

(11)会員制度の変更に関し、内規、定款、学会規定等の改定案と合わせて説明があり、会員制度の変更について基本的な方針は了解されたが、東南アジア等からの外国人研究者を無料の会員とする制度案については、実態調査を実施した上で改めて検討することになった。定款の改訂に係る学会法人化に関連する総会成立要件案、解散条項案の内容については、それぞれ以下の通りとすることになった。

総会成立要件：「会員（正会員及び正学生会員）の3分の1以上の出席」

解散要件：「理事会及び総会において、出席者の4分の3以上の議決」

(12)入退会希望者について承認された。

入会：（正会員）1名（準学生会員）1名

退会：（正会員）4名

以下、メーリング理事会。

(13)入退会について、承認された。

[メーリング理事会 H20-4]（5月23日付）

入会：（正会員）4名

退会：（正会員）9名

(14)投稿規則の一部改訂について承認された。

[メーリング理事会 H20-5]（6月3日付）

(15)平成20年度役員選挙に係る選挙管理委員会委員が承認された。

[メーリング理事会 H20-6]（6月17日付）

（総務理事：村上 博幸（原子力機構））

## 企画委員会報告

### 平成20年度 第2回企画委員会議事録

日時：平成20年9月16日(月) 13:30~16:10

場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター

出席：古田(委員長)、谷口、近江、飯本、大内、伴、渡辺<sup>想</sup>、山崎

議題

1. 委員の交代
2. 第1回企画委員会議事録確認
3. 理事会報告
4. シンポジウム企画等
5. 専門研究会活動報告
6. 広報報告
7. インターネットグループ報告
8. その他

配布資料

- 2-1 企画委員会名簿
- 2-2 平成20第1回企画委員会議事録(案)
- 2-3 20年度第2回保健物理学会理事会議事録
- 2-4 シンポジウム「放射線リスクのよりよい理解のために」
- 2-5 シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」
- 2-6 保物セミナー2008 計画(メモ)
- 2-7 新・放射線と人体への影響改訂について
- 2-8 保物メーリングリストの利用について
- 2-9 インターネットグループの活動について

議事

1. 委員の交代

谷口委員から近江委員への交代が12日の理事会で承認されたことが報告され、委員会で確認した。

2. 第1回企画委員会議事録確認

前回会合の議事録を確認し了承された。

3. 理事会報告

理事会での議事・報告事項を確認した。規定の改正に伴い会員証の提示やフェロー会員に関する内規、法人化の検討状況等について報告された。

4. シンポジウム企画等

資料2-4、2-5に基づき10月4日予定のシンポジウム「放射線リスクのよりよい理解のために」、10月31日予定のシンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」の取り組み状況の報告が行われ、引き続き編集委員会と連絡を取り企画記事への打診を行うこととした。また保物セミナー2008について、企画委員会セッションとして、「国際放射線防護基準への現場への対応」に関する内容が確認された。

5. 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から以下のように報告があった。

- ・ICRP新消化管モデル専門研究会ではモデルについての講演、シンポジウムの開催などを検討。
- ・放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、10月4日にシンポジウムを開催予定、また学会HPにリスコミの解説記事を載せる予定。
- ・ラドン測定標準化専門研究会では測定の標準化を目的として測定手法の特性をリスト化し、ISO、WHOなどの動向も注視、国際的プロジェクトのドラフトへのコメントにも対応。
- ・医療放射線リスク専門研究会では最近の主要な論文をピックアップし、それぞれレビューの担当者を決定。
- ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会では方針を固めFactの整理を実施中。  
(詳細はNewsletter各専門委員会報告を参照)。

6. 広報

シンポジウム予定をプレスに周知伝えることについて確認した。また検討中の学会法人化に伴い今後のHPの見直しの必要性について議論されたが、当面は各委員で適宜修正必要箇所をチェックすることとした。

7. その他

- ・引き続き、前期専門研究会報告書提出のフォロー
- ・「放射線の人体への影響」改訂について議論され、改訂は有益であること、臨時委員会を設置し予算化すべき、印税や版權関係等を調べた上で理事会でも議論が必要等の意見が出された。
- ・メーリングリストのルールについての再周知と登録者を増やすことを目的としてお知らせメールを流すこととした。

8. インターネットグループ報告

Newsletter No. 52は、10月末を目途に発行することとした。

9. その他

- ・次回の会合調整。

(企画委員会：古田定昭(原子力機構))

**シンポジウム「放射線リスクのよりよい理解のために」開催報告**

日時：平成20年10月4日(土)

場所：千代田テクノ株式会社(2階会議室)

原子力利用を始めとする放射線利用における社会の不安要因のひとつとして、放射線リスクがあげられる。情報入手経路が多様化している現在、ステークホルダー(関連する利害関係者)の理解を得るには従来型の一方的情報提供型の広報活動では不十分であり、放射線防護や放射線影響の専門家と非専門家であるステークホルダーの間での双方向コミュニケーション、いわゆるリスクコミュニケーション(以下、リスコミ)の必要性が強調されている。リスコミの実施にあたっては、科学的に正確な情報を分かり易い言葉で伝えていくことが求められており、専門家の果たす役割は大きい。そのような背景のもと、放射線のリスコミ検討専門研究会では、学会ホームページで「保健物理学会員のためのリスコミ講座」を開設し学会員に基礎的知識を提供するなどの活動を行って来た。本シンポジウムでは、基調講演として、リスコミ界の第一人者である木下富雄先生に歴史的背景から放射線影響に関するリスコミについてまでお話をいただいた後、専門研究会員により「リスコミ講座」並びに様々なリスコミ事例の紹介を行なった。パネルディスカッションでは、現場での苦労や問題提起例をもとに、木下先生にアドバイスをいただきながら参加者と議論を行なった。本シンポジウムへの参加者は57名(講師7名を含む。本学会員31名、日本放射線安全管理学会

員5名、非会員21名)を数え会場は満席となり、多数の方が質問やコメント等を発言されるなど、終了予定時間を過ぎても活発に意見交換が行なわれた。本テーマへの関心の高さとリスコミがいかに関心の高い身近な課題となっているかが示されるとともに、現場で悩みながら試行錯誤で臨んでいる方の多さがうかがわれたシンポジウムであった。

#### 【プログラム】

- (1) 基調講演「原子力のリスクコミュニケーションとくに放射線問題を中心に」  
国際高等研究所 木下富雄
- (2) 専門研究会報告
- ・活動報告  
原子力機構 篠原邦彦
  - ・リスコミ講座の開設  
東北大学 大内浩子
  - ・原子力施設のリスコミ事例  
原子力機構 米澤理加
  - ・医療関係のリスコミ事例  
横浜労災病院 渡辺浩
  - ・化学物質のリスコミ事例  
日本エヌユーエス 近本一彦
- (3) パネルディスカッション  
「我々はリスクコミュニケーションにどう取り組むべきか」  
(話題提供)
- ・原子力 発電所放射線管理員としての経験から  
日本原電 谷口和史
  - ・医療現場から  
横浜労災病院 渡辺浩
  - ・教育・研究分野から  
東北大学 大内浩子
  - ・リスコミ現場の苦悩  
日本エヌユーエス 近本一彦



木下富雄先生の基調講演の様子



パネルディスカッション時の様子

(担当企画委員：大内浩子（東北大大学院）)

## 編集委員会報告

平成20年度 第1回編集委員会議事録

日時：平成20年6月23日（水）13：30～16：00

---

---

場所：日本原子力研究開発機構 システム計算科学センター大会議室

出席：斎藤（委員長）、木名瀬（幹事）、石川、木内、真田、中野、安岡、横山、山澤、大倉（若手）、笠原（事務局）

議題

1. 第5回編集委員会議事録確認
2. 投稿規則および手引きの見直し
3. 学会賞推薦方法について
4. 投稿勧誘について
5. 企画記事提案について
6. 論文審査状況、43-2, 3号編集進捗状況の確認
7. その他

配布資料

- 1-1 2007年度第5回編集委員会議事録（案）
- 1-2-1 「保健物理」投稿規則
- 1-2-2 「保健物理」投稿の手引き
- 1-2-3 Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors
- 1-3 学会賞推薦に係る覚書追加案
- 1-4 投稿勧誘推薦
- 1-5 論文原稿受付から掲載までに要する時間の統計
- 1-6-1 企画記事提案書式
- 1-6-2 企画記事提案 例1
- 1-6-2 保物学会誌第43-4号特集記事について
- 1-7-1 Aパート進捗状況
- 1-7-2 Bパート進捗状況
- 1-7-3 Cパート進捗状況
- 1-7-4 若手研究会記事
- 1-8-1 43-2, 43-3号編集状況
- 1-8-2 論文審査状況
- 1-9 第42回研究発表会総会用資料
- 1-10 第42回研究発表会用活動報告ポスター

議事

1. 前回議事録の確認  
2007年度第5回編集委員会議事録が承認された。
2. 投稿規則等の見直し  
「保健物理」投稿規則、「保健物理」投稿の手引きおよびJapanese Journal of Health Physics Instructions to Authorsの修正案について確認し、第43-2号に掲載することになった。「保健物理」投稿規則において、論文の独創性・新規性の規定を実態に合うよう修正することになった。
3. 学会賞推薦方法について  
学会賞の選考方法について検討した。査読委員による採点基準を客観性のある分かり易い表現に変更して採点の標準化を図るとともに、採点のばらつきを補正し、論文の完成度も考慮する目的で、担当編集委員による評価も加えて、総合的に判断することとした。
4. 投稿勧誘について  
第42回研究発表会において、優れた発表に対して、学会誌への投稿勧誘を行うことにした。勧誘への推薦は、研究発表会時の各セッションの座長等に依頼することにした。
5. 企画記事提案について  
B, Cパートの企画記事提案書式が提案され、了承された。また、43-3号に、「ICRP新勧告がだされこれからの放射線防護を考える」の解説、43-4号に、「Environmental radioactivity monitoring around the Rokkasyo reprocessing plant」の解説が提案され、了承された。  
専門委員会の活動、IRPAなど国際会合の話題提供を関係者に要請することにした。
6. 論文審査状況、43-2, 3号編集進捗状況の確認  
論文原稿受理から掲載までに要する日数の統計結果が報告され、当該日数の短縮化について、具体的な改善方法を



検討することになった。

次号 43-2 号以降の掲載論文の審査状況が確認された。

## 7. その他

第 42 回研究発表会総会用資料、編集委員会活動報告ポスターについて提案され、了承された。

今回の会合は、平成 20 年 9 月 11 日（木）13 時 30 分から、東京で開催されることとなった。

（編集委員会幹事：木名瀬 栄（原子力機構））

## 国際対応委員会

### 平成 20 年度 第 1 回国際対応委員会議事録

日時：2008 年 7 月 28 日 13:30～16:45

場所：大手町ビル 7F 電中研本部第 3 会議室

出席者：酒井委員長（放医研）、服部副委員長（電中研）、加藤（JAEA）、橋本（JAEA）、佐藤（東電）、  
伊知地（幹事：電中研）<sup>記</sup>

欠席：山口和也（大阪大）、山口恭弘（JAEA）、飯田（名大）、占部（福山大）、山外（JAEA）、赤羽（放医研）、高崎（JAEA）

議事：

#### （1）平成 20 年度国際連携状況

○ 酒井委員長より IRPA 対応、韓国放射線防護学会との連携、中国放射線防護学会との連携に関して紹介があった。主な内容は以下の通り。

- ・ IRPA の理事にはアジア地域からの理事がいないため、アジア代表として、AOARP 会長を推薦するよう調整している。
- ・ 韓国放射線防護学会には保物学会からの交流報告として、日大歯学部野口会員を派遣し航空機搭乗者の宇宙線被ばくに関する専門研究会の成果を、神戸大学小田会長からは放射線防護に用いる線量概念の専門研究会の成果を発表する。
- ・ 中国放射線防護学会では、2007 年度論文賞を受賞した JAEA 高橋会員から口頭発表を、シンポジウムで酒井委員長が ICRP 新勧告について発表する。

#### （2）ICRP 「緊急被ばく状況におけるヒトの防護に関する ICRP 勧告の適用」へのコメント検討

- ・ 学会員から寄せられたコメントおよび委員メンバーからのコメント内容について検討し、「緊急被ばく状況におけるヒトの防護への ICRP 勧告の適用ドラフトコメント」としてまとめた。（添付-1）
- ・ 今回取りまとめたコメントは、日本保健物理学会国際対応委員会のクレジットで 2008 年 8 月 8 日までに ICRP のウェブサイトへ投稿する。なお、意見を寄せていただいた会員もいるため、コメント内の謝辞に意見を寄せていただいた会員名を記載することとする。
- ・ ICRP ウェブサイト投稿後に理事会に報告し、学会ホームページへ掲載し会員へ情報提供する。
- ・ コメントを寄せていただいた会員へは個別に、各コメントに関して委員会としての採否の理由を示し連絡することとする。

#### （3）IAEA BSS Draft 1.0 へのコメント検討

- ・ 委員メンバーからのコメント内容について検討し、「BSS Draft 1.0 へのコメント」として取りまとめた。（添付-2）
- ・ 8 月 28 日に開催される文科省主催の RASSC 調査専門委員会の場において、服部副委員長から保物学会国際対応委員会の意見として報告する。
- ・ 9 月 1 日～2 日に開催される OECD/NEA 主催の EGIR アジア会合において、酒井委員長から保物学会国際対応委員会の意見として報告する。

添付資料

○添付-1：緊急被ばく状況におけるヒトの防護への ICRP 勧告の適用ドラフトコメント

○添付-2：BSS Draft 1.0 へのコメント

（国際対応委員会委員長：酒井一夫（放医研））

## 放射線防護標準化委員会

### 第 21 回 幹事会

開催日：平成 20 年 8 月 22 日（金）

場 所：東京電力 東別館 3 階 305 会議室

---

出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、片岡幹事、佐藤(鈴木幹事代理)、河田委員

議事概要：

- ・ 「ラドンの防護に関するガイドライン」の内容を確認し、構成について意見交換した。前回委員会での議論を受け、早急に長期被ばくの規準を策定し、その傘の下に、ラドン、NORMなどのガイドラインを納めたほうが理解しやすいとの意見を採用することとなった。
- ・ 専門部会準備会を9月に発足、第1回会合を開催することにした。専門部会準備会では、「ラドン」と「表面汚染の免除レベル」に関するガイドラインを扱う。

## 第22回 幹事会

開催日：平成20年9月29日(月)

場 所：東京電力 東新ビル 1階 105会議室

出席者：小佐古委員長、金子副委員長、服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、片岡幹事、佐藤(鈴木幹事代理)、荻野オブザーバー

議事概要：

- ・ 標準に作成にあたり、現場の要望を尊重することの重要性を確認し、今後の活動方針について意見交換をした。
- ・ 当委員会の活動を広く学会員および関係者に認知いただくための方策について意見交換した。ホームページの活用、標準冊子の配布、シンポジウムの開催、現場へのヒアリングなど。

## 第1回 専門部会準備会

開催日：平成20年9月29日(月)

場 所：東京電力 東新ビル 1階 105会議室

出席者：小佐古委員長、服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、片岡幹事、佐藤(鈴木幹事代理)、荻野オブザーバー

議事概要：

- ・ 「長期被ばく」の規準、「ラドン」「NORM」「航空機被ばく」のガイドライン」案が提示された。大枠については了承され、一部修正の後、委員に配布し、これらに対する意見を募ることになった。
- ・ 「表面汚染免除レベル」のガイドラインに関する作業会の組織案が提示され、了承された。また、本作業会の活動方針について意見交換した。

(放射線防護標準化委員会幹事：飯本武志(東大))

## 法人制度検討WG

### 法人制度検討WG第4回会合議事録

日 時：平成20年9月19日(金) 12:05~12:55

場 所：原子力機構 システム計算科学センター 第一会議室

出席者：小田、杉浦、太田、古田(村上代理)、酒井行政書士、林行政書士

議 題：

#### 1. 前回議事録の確認

第3回会合の議事録は既にメールにて確認された。

#### 2. 第1回説明会以後の検討項目について

説明会での質疑討論を受けて、今後の調査検討項目について相談した。

(1) 会員へのより分かり易い説明のためにも、以下の必要経費の見積もりが不可欠である。

- ・ 事務所経費(専有事務所、共有事務所内一部スペースなど)
- ・ 事務職員雇用費(雇用形態に依存)
- ・ 基金の移動の際の税金

(2) 定款および会則の原案策定作業を始める段階に来ているので、以下の点に留意して次回会合までに骨子について検討することになった。

- ・ 組織体制(評議員制度、部会制度の導入など、他学会との合流の可能性)
- ・ 定款と会則の2本立てとする

(3) 第1回説明会の際に会員から指摘のあった「外部委員の意見」については、定款の原案が固まった段階で外部識者に意見を伺うことにする。

### 3. スケジュールについて

今期の理事会で一定の結論を得る (or 法人への移行の体制を整える) とすると、第4回理事会 (11/6) において組織体制の議論、第5回 (1月) と第6回 (3月) で定款・会則案の審議、というスケジュールになる。

### 4. 次回会合について

10月30日(木)午後を予定する。ここでは組織体制について詰めて議論する。

(小田啓二 (神戸大学) )

## 若手研究会

### 若手研究会活動報告

#### 1. 主査・幹事会合の実施

主査・幹事会合を7月25日に原子力機構東海研究所で実施いたしました。主な議題は以下の通りとなっております。詳細は、日本保健物理学会誌の若手研のページをご参照下さい。

- (ア) 若手研究会運営規則の確認
- (イ) 若手セミナーの開催について
- (ウ) 若手研究会のページの充実について
- (エ) 放射線防護標準化委員会への若手研枠の追加について
- (オ) 第2回若手勉強会の企画

#### 2. 平成20年度若手セミナーの開催

若手研究会では、若手セミナーを11月に開催する予定となっております。アンケートの結果、ICRP新勧告についての議題を中心とすることに決定いたしました。また、各若手研究会参加者から、日々の業務・研究活動・生活について簡単にご紹介していただく予定です。今回も、若手研究会員のみならず学友会の方々にも開催案内を出させていただきますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

若手研HPにて皆様に開催案内をご連絡させていただきます。

#### 3. 第1回若手勉強会実施報告

平成20年8月8日、世界中が注目した北京オリンピック開幕と時と同じくして「第1回若手勉強会」が東京 大手町の電力中央研究所で開催しました。若手研ではこれまで「若手研セミナー」を年1回開催してきましたが、若手研活動のさらなる活性化と会員同士の交流を深めるため今年度より「若手勉強会」を新たに立ち上げることにしました。記念すべき第1回若手勉強会には電力中央研究所放射線安全研究センター客員研究員の小穴孝夫氏を講師に招き、「放射線による発癌リスクは線量に比例するか？」というタイトルでご講演頂きました。若手研以外にも学友会や一般会員の方々もご参加いただき14名の参加者となった第1回若手勉強会は盛況の内に幕を閉じました。また、勉強会の後の懇親会でもざっくばらんな議論が展開され大変有意義な時間となりました。若手勉強会を通じて改めて感じたことは、「専門分野の異なる若手研究者が集まって様々なテーマで自由に議論しお互いを刺激し合うことが若手研の一番の醍醐味」ということであります。今後も保健物理に関する幅広い話題の中から適切なテーマを取り上げ自由に議論ができる勉強会を企画していきたいと考えております。



会場の様子



質疑応答の様子

#### 4. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は47名です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入

---

会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：山外 功太郎（日本原子力研究開発機構）

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-5933, E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

幹事：荻野 晴之（電力中央研究所）

TEL：03-3480-2111, FAX：03-3480-3564, E-mail：haruyuki@criepi.denken.or.jp

幹事：小池 裕也（東京大学）

TEL：03-5841-2876, FAX：03-5841-3049, E-mail：koi@ric.u-tokyo.ac.jp

（主査：山外功太郎（原子力機構））

## 学 友 会

### 「学友会」活動報告

2008年8月28日、29日に、高校生原子力サミット第2回交流会が日本青年館（東京都）にて開催されました。高校生が各グループに分かれ、放射線、原子力等に対する提言を自由に考えるというスタンスをとった今回のサミットに、学友会からは、東京大学小佐古研究室、首都大学東京福土研究室からそれぞれ4名が、アドバイザーとして参加しました。

放射線や原子力にあまり馴染みのない高校生が、事前に調査してきた内容を発表し、全国の高校生が入り混じったグループごとに議論して提言をまとめるといった活動は今回が初めてであり、本サミットを主催された日本原子力文化振興財団の担当者の方から、どのような成果が得られるかはやってみないと分からないというお話を事前に聞いた上での開催となりました。この為、参加した学友会会員も、それぞれに多少の不安を持って当日に臨んだのではないかと思います。

いざサミットを迎えると、実際には高校生同士の活発な意見交換が行われ、我々の不安をよそに、各グループから中身の濃い提言が作成されていました。アドバイザーの役割は、ディスカッションの際、意見が大きく逸脱しそうなとき、高校生だけではどうしても分からないことがあるときなどに、ヒントや助言を与えるといったものでした。アドバイザーは、このような役割を全うしながら、ところどころで飛び出す高校生の鋭い意見にこちらが感心させられるなど、それぞれに非常に有意義な体験ができたのではないかと思います。

今回は会場が東京だったこともあり、東京を拠点とする2大学から学友会会員が参加し、東京地区での学生間の結びつきがさらに深まったイベントとなりました。今後も保健物理学会に属する学生間の交流を活性化し、より一層活気のある学友会を目指していききたいと思います。

（嶋田智昌（東京大学原子力国際専攻修士1年））

## 専門研究会等の報告

### ICRP 新消化管モデル専門研究会

本専門研究会では、ICRP Publ.100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」について、学会員の共通の理解と情報共有のため活動しています。

第6回会合を9月10日（於 東京）に開催しました。第6回会合では、ICRP 新消化管モデルに関連する講演として、① ICRP Publ.100 に与えられている HATM を使用した計算例の解析（波戸委員）、② 内部被ばく線量評価のためのガイドラインの概要と問題点（栗原委員）、③ IMBA による HATM の試算（高橋委員）、の3件の講演を行い、HATM の試算結果等について議論を行いました。また、会務として、本専門研究会が主体となって開催するシンポジウムについて検討し、第1部；ヒト消化管モデル（HATM）の解説、第2部；線量評価に関する最近の話題、の2部構成で行うこととしました。講師、日程等については、これから調整していきますが、多くの方に参加いただけるような内容とすべく検討していきたいと考えています。

（幹事：伊藤公雄（原子力機構））

### 放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会

5月以降、保物学会員のためのリスクコミュニケーション講座の開始とシンポジウム（10/4）の開催に向けて積極的な活動を行ってきた。リスクコミュニケーション講座はHP上に9月から連載を開始（3回を予定）した。シンポジウムについては「企画委員会シンポジウム報告」を参照下さい。

第5回検討専門研究会

- 
1. 開催日：平成20年5月16日（金）
  2. 場 所：日本原子力研究開発機構 東京事務所 第5会議室
  3. 出席者：（委員）大内浩子、篠原邦彦、谷口和史、永井博行、米澤理加、（オブザーバー）中川晴夫
  4. 議事概要：
    - (1) 保健物理学会員のためのリスクコミュニケーション講座（教育資料）
 

大内委員が中心となって作成している教育資料を確認。修正・追加等ではできるだけ早めに対応し、完成後、学会のHP上（研究会のページ）に掲載する。内容には、日本のリスクコミュニケーションの歴史（木下先生の講演より先生の承認の上で引用）、各委員から出されたリスクコミュニケーション事例を盛り込むこととした。また、用語集についても検討することにした。
    - (2) リスクコミュニケーションに関する学会ホームページ活用
 

ホームページを管理・運営して行くにはそれなりの組織が必要だが、現在の学会組織では運営していく部門がない。研究会からリスクコミュニケーションに関するホームページの企画を学会に提案する。（HP活用についての検討の経緯は、報告書にまとめる。）
    - (3) シンポジウム（10/4）の内容について意見交換した。
    - (4) メンバーの意見交換から（トピックス）
      - ①ダイヤル110番
 

原子力学会では、「疑問・質問があったら誰に聞いたらいいの？」に対して即答できる相談窓口的な機能を設置する話がある。
      - ②組織と個人
 

保物学会には、さまざまな分野の専門家がいる。1つの質問や記事などに対しても、考え方が色々あり、学会としてまとめて示すことは難しい。（誰が書いて、責任を持つか？）しかし、海外や原子力以外の分野では、学会としての見解を示しているところもある。

一人の専門家としては話せることも、組織の立場では話したくても話せないこともある。

#### 第6回検討専門研究会

1. 開催日：平成20年7月24日（木）
2. 場 所：日本原子力研究開発機構 東京事務所 第3会議室
3. 出席者：（委員）篠原邦彦、永井博行、米澤理加、（シンポジウム講師）木下富雄先生
4. 議事概要：
  - (1) シンポジウムについて
 

木下先生にお越しいただき、シンポジウムでの講演内容について打ち合わせた。

    - ①講演の内容
      - ・「リスクコミュニケーション」の捉え方が学会員によって違うので、共通の認識にできるよう、一般的な定義を改めて話していただく。
      - ・（主に原子力施設の放射線管理や医療関係の）実務者が、これからリスクコミュニケーションに取り組みたいが、どのようにアプローチしていったらよいか？具体的に組み立てていけるようなヒントを紹介していただく。
      - ・先生の考えておられる統合的なリスクコミュニケーションについても触れていただく。
    - ②先生から
 

これまでも保物学会の依頼でリスクコミュニケーションについて話をしたことがある。また、各地の大学にある放射線管理センターをまわって講演したこともある。さらに、今年11月には放影協でも講演の依頼を受けている。同じ相手に同じ内容の話はできない。

#### 第7回検討専門研究会

1. 開催日：平成20年9月16日（木） 10:25 ~ 12:15
2. 場 所：千代田テクノル会議室（御茶ノ水）
3. 出席者：（委員）大内浩子、篠原邦彦、永井博行、米澤理加、（協力者）小迫智昭（千代田テクノル）
4. 議事概要：
  - (1) シンポジウムについて
 

実際に会場を確認しながら、当日の準備や流れなどを確認した。

    - ①パネル討論について
      - ・各パネラはそれぞれ5～7分程度で、自らのリスクコミュニケーション経験をもとにうまくいったこと、困って

いることなどを紹介する。

- ・近本委員は15分程度で、リスクコミュニケーション現場の苦悩について紹介する。（一番関心が高いテーマなので時間をかける。）

## ②シンポジウムの報告

- ・学会誌への執筆は、参加者の中から事前に依頼する。

## ③その他

- ・参加申込者には、質問等があれば、事前に送付いただくように連絡する。（より活発な意見交換ができるように。）
- ・メーリングリストを使った案内は、申し込み締め切り前とシンポジウムの直前に再度送信する。（直前にならないと予定が決まらない人もいる。）

## (2) 教育資料について

- ・3回に分割して、学会のホームページに掲載する。（9月、11月、1月予定）
- ・シンポジウムでは、製本して配布する。
- ・教育資料をベースに、本研究会の活動報告書を作成する。

（幹事：谷口 和史（日本原子力発電株式会社））

## 大学等における放射線安全管理教育連絡会

現在、大学等における放射線安全管理教育連絡会では診療放射線技師、医師（放射科医、その他の医師）、看護師、その他の従事者に対する放射線安全管理教育のカリキュラムの検討を行っている。具体的には診療放射線技師および医学物理士向けの国家試験ガイドラインおよび教科書を収集した。その目次から医師、看護師、その他放射線関連の科目を履修していない医療従事者にとって必要な知識について検討中である。

（幹事：細田正洋（放医研））

## 医療放射線リスク専門研究会

本研究会は、近年増加の一途をたどる医療被ばくに関して、放射線リスクに対する考え方を整理することを目的として、今年度新たに設立された。医療被ばくの実態と放射線影響に関する知見を踏まえた議論を展開するために、メンバーは医療放射線分野の会員と放射線影響・リスク分野の会員で構成されている。

6月に那覇で第1回の会合を開催し、今後の活動方針について話し合った。これまでに、医療被ばくのリスクに関して話題となった最近の論文を4編取り上げ、それぞれ担当を決めてレビューを進めている。メールでの討論を重ねた上で、これらの論文に対する評価・コメントをまとめ、随時Webに掲載する予定である。

[構成メンバー] 甲斐倫明（大分看科大：主査）、太田勝正（名大）、小野孝二（大分三重病院）、酒井一夫（放医研）、長谷川隆幸（東海大）、伴信彦（大分看科大：幹事）、福土政広（首都大学東京）、吉永信治（放医研）

（幹事：伴 信彦（大分看科大））

## 学 会 掲 示 板

### 次期専門研究会の立ち上げについて

次期（平成21年度－22年度）の専門研究会の募集を以下の要領で行いますので、設置を希望される会員の方は、専門研究会運営細則（下記の参考）をお読みの上、A4判で下記の必要事項を記入したファイルを添付し企画委員会まで応募ください。応募締め切りは専門研究会運営細則第2条1項に従って平成20年12月末とします。

1. 専門研究会の名称
2. 提案者名（複数でも可）と連絡先
3. 提案理由（1,000字以内）
4. 計画の概要
5. 予算
6. 予定される研究会員名（主査候補者を含む）
7. 設置予定期間（1期は2年間です。）

問合せ先、応募先：古田定昭（furuta.sadaaki@jaea.go.jp）

なお、現在の専門研究会は以下のとおりです。平成21年度継続の専門研究会が3件ありますので、専門研究会運営細則第2条5項「同一時期における専門研究会の設置数は、原則として5件以内とする。」により次期専門研究会の採用予定数は原則として2件です。

---

---

**<平成21年度継続>**

医療放射線リスク専門研究会  
放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会  
ラドン測定標準化専門研究会

**<平成20年度終了予定>**

放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会  
ICRP 新消化管モデル専門研究会

**<参考>**

専門研究会運営細則

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules\\_pdf/rule\\_002.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules_pdf/rule_002.pdf)

現在活動中の専門研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/activities.html>

(企画委員長：古田定昭 (原子力機構))

**インターネットグループの活動**

インターネットグループ (IG) は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

メーリングリスト管理 (主査兼務) : 山崎 直 (原子力機構)

ホームページ保守 : 中野政尚・吉富 寛 (原子力機構)、荻野晴之 (電中研)

ニュースレター編集 : 佐川宏幸 (福山大学)、鈴木敦雄 (静岡県)

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス (jhps@wwwsoc.nii.ac.jp) へメールしてください。

**メーリングリストへのアドレス登録のお願い**

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局 (jhps@iva.jp) まで配信先アドレスを連絡願います。

(IG主査：山崎 直 (原子力機構))

**学会刊行物の案内**

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています (括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO 事務センターにお申し込み下さい (送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) | (31部) 1,777円            |
| 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書 (1998)       | (52部) 1,700円            |
| 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書 (1998)        | (81部) 2,000円            |
| 4) 自然界の放射線 (能) の面白さ、相互理解の掛け橋に (2001) | (127部) 1,700円           |
| 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係 (2002)     | (159部) 2,000円           |
| 6) 放射線の人体への影響 第3版 (1986)             | (4部) 800円 (会員割引価格、送料込)  |
| 7) 放射線の人体への影響 第5版 (1992)             | (15部) 800円 (会員割引価格、送料込) |

連絡先：日本保健物理学会事務局

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-11 文献堂ビル3F

TEL : 03-3548-0342 FAX : 03-3548-0344 E-mail: jhps@iva.jp

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：佐川 宏幸 (福山大学)